

「全鍍連」 2025年 2月号 若者から一言

埼玉県鍍金工業組合

埼玉鍍会 会長 矢澤 健（ふたば工業(株) 専務）

「紡がれてきた埼玉鍍会」

埼玉鍍会の28代目会長を仰せつかっております、矢澤と申します。

こんな大役を自分が引き受けていいものかと悩む日々ですが、幸いにして自分は周りの人たちに恵まれており、なんとか一年目を無事全う出来そうです。ありがたい。

さてここで余談ですが、イギリスにデイジーという年を召したおばあちゃんがいます。デイジーは編み物と家族の話をする事が大好きで、フラッフィーという猫を飼っていて、ハイテクには疎くておしゃべりする時間がたっぷりあります。デイジーのおしゃべりは凄まじく、悪さをしようとした詐欺グループからの電話でも止まりません。なかには40分以上にわたっておしゃべりをし、詐欺グループの時間を無駄にさせてしまう程です。

実はこのデイジーというおばあちゃん。詐欺グループのカウンターとして開発されたAIおばあちゃんなのです。今実験運用中らしいのですが、性能は上記の通り。ここまでできましたかAI。

自分が就職する前から言われ続けてきた少子高齢化社会が弊害・障害が色んな形になって表れてきました。皆さんもどれが正しいかわからない中、模索し決断を強いられているかと思います。

その中の一つに労働人口の減少による働き手の確保があります。めっき処理には熟練した技術がないとうまくめっき処理が行えない職人的な面もあると思います。それを伝えていくには時間を取って教えるか、先輩の仕事を盗むしかないと思います。

ただDX化やAIも膨大なデータを元に働くと思っています。データとは技術、経験の積み重ね事です。それらが今まで担当者にしかわからなかったものが、担当者以外にも簡単に見る事が出来るのが強みだと思います。属人化から標準化。どちらも時間が限られてしまいます。それが好きな時に閲覧できるのは凄い事だと思います。もちろん技術には経験、数をこなす必要性がありますが、これは情報の共有として有能だと思います。

めっき工は2015年にAIの発達やロボット等による代替可能性が高い100種の職業の一つに上がったことがあります。しかしめっきという技術自体にはまだまだ人間が行っていく必要があると思っています。

確かにAIやロボットに頼れる所は増えつつあると思いますし、利があるのならばどんどん活用していくべきだと思います。新たなトライアンドエラーは人間にしかまだまだ出来ないと思います。

そのためにも従業員だけではなく、我々自身も日々アップデートをしていく必要があります。弊会はそのための一つ場として有効に活用できればと思っています。もちろん楽しく。最初に言わせて頂いた通り、自分は周りに恵まれております。そんな仲間達と一緒に、今だけではなく、これからの業界の為に、出来る事を一つ一つ行い、繋げていきたいと思っています。